

地域の“未来”を みんなで話し合い、 そして実行する それが「小さな拠点づくり」です



なぜ、「小さな拠点づくり」を進めるのでしょうか

地方から都市に人が移っていった、昭和の高度経済成長期。島根県でも、この頃に大きく人口が減りました。その後、大規模な流出は収まったものの、出生数が減り、高齢化が進んだこともあって、いまま県全体で人口が年間約5000人減り続けています。

なかでも著しく減少しているのが、県土の9割を占める中山間地域です。将来予測では、2010年からの20年間で人口の約1/4が減り、地域の活動の担い手不足が起こることが予想されます。

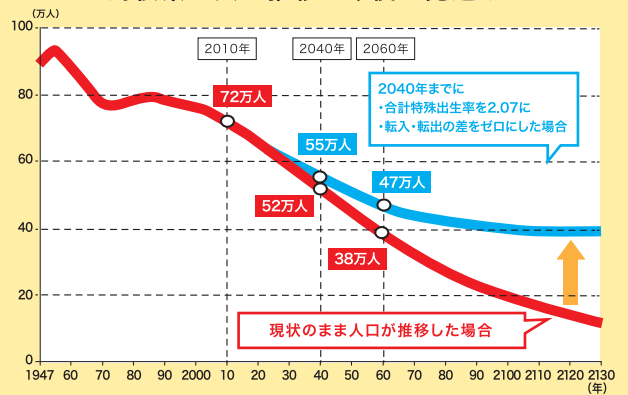
地域の活動の担い手が減れば、祭りや伝統文化、生活の知恵などを次の世代に受け継ぐことができず、地域の活力が失われてしまいます。また、農地や山林が荒廃して、自然災害が起こりやすくなります。

厳しい状況を前に解決の糸口を探ることなくあきらめてしまえば、これまでみなさんが守り受け継いできた中山間地域は、確実に荒廃します。消滅してしまうおそれもあります。

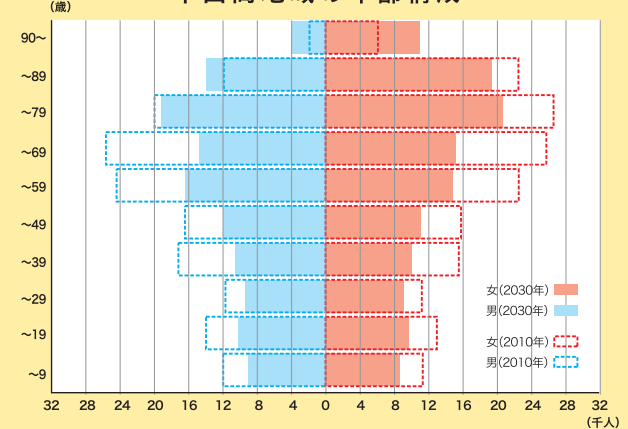
今すぐにも、具体的な解決策を話し合わなければなりません。例えば、地域で生活するために必要な買い物をする場や、そこまで出かけるために必要な交通手段をどう確保するのか。自分たちの地域だけではまかなうことのできない機能やサービスを、もっと広いエリアで、例えば、近隣の地域と一緒に維持し、補いあうのか。担い手を「地域の中で育てる」のか、「外から新しい人材を呼び込む」のか。地域によって、課題解決の方法はさまざまです。

今後も安心して中山間地域に住み続けるために、住民のみさんと行政と一緒に課題を見つめ、地域の未来や希望を語り合い、地域の活力を取り戻しながら、次の世代にバトンタッチできるような仕組みづくりを考えていきましょう。

島根県の人口推移と今後の見込み

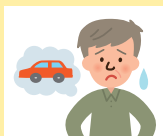


中山間地域の年齢構成



今こそ、行動を起こすときです。

人口減少がいち早く進む中山間地域では、様々な課題が現れてきています。あなたのお住まいの地域に、このような課題はありませんか？



運転に自信がなくなった...
通院どうしよう...



唯一の商店が廃業するそうだ
買い物どうしよう...



いつまでも健康で
自分の家に住み続けたい



災害がきたらどうやって
避難しようか...



あちこちに空き家が
増えてきた...



地域の加工場で
特産品を開発したい



高齢の母が一人暮らし
心配だ...



若い人が移住してくれる
地域にしたい



草刈りも参加者が
減って大変だ...



イノシシが大切な畑を
荒らして困っている...

中山間地域は、豊かな自然と文化に恵まれ、先人たちの手により今日まで大切に引き継がれてきたかけがえのない財産です。今後も、安心して中山間地域に住み続けていくために、今こそ、みなさんの「知恵」と「工夫」と「行動」が必要です。そのためには、住民のみみなさんの話し合いを通じて、地域運営の仕組みづくりを行う「小さな拠点づくり」を、県や市町村と一緒に進めていきましょう。

「小さな拠点づくり」はこのように進めていきましょう

1 まずは地域の現状を知りましょう

お住まいの地域に県と市町村の職員が訪問して、公民館エリアを基本とした地域における「小さな拠点づくり」の説明を行っています。（県にご連絡いただきますと、日程を調整の上、ご説明に伺います。）

- 「小さな拠点づくり」とはどのようなものか
- お住まいの地域の人口、高齢者・若年者・子どもの数の推移と、将来の予測
- 人口シミュレーション(移住者の受け入れなどにより将来予測がどう変わるか)
- 他の地域の取り組み事例 ● 研修会等のご案内



「小さな拠点づくり」について説明します

2 地域の課題を住民のみなさんの話し合いの中で認識し合いましょう

地域の課題を念頭に、お年寄りから子どもまで“地域の未来の姿”を持ち寄り、実現するための話し合いを行いましょ。

- 地域の未来を計画としてまとめます
- 計画を実現するための行程表(ロードマップ)を併せて作成します



話し合いのコーディネートや計画づくりのお手伝いから実践活動のサポートまで県と市町村が連携して行います

3 役割分担を決め、出来るところから実践活動を始めましょう



地域による自治会輸送



地域運営組織による産直市



高齢者サロンでの健康体操



地域運営組織による炊き出し訓練



地域資源を活用した特産品開発



高齢者への配食サービス



小学生の見守り活動



ボランティアと協働した草刈り

※地域運営組織とは、地域の住民が主体となって形成し、地域の課題解決に向けた取り組みを行う組織をいいます。

4 中山間地域に今後も安心して住み続け、この魅力あふれる地域を次の世代に引き継いでいきましょう！

県は、

- 地域のみなさんや市町村の話をよく聞き、一体となって課題解決に向け取り組みます
- 中山間地域に共通する課題の解決に全力を尽くします

平田広文さん (川本町北地区)



ひらた・ひろふみ 川本町三原地区(北地区)出身。
トヨタ自動車(愛知)のシンクタンクで研究職に従事。
2012年、定年退職を機に夫婦でUターンし、有機農
業や竹堆肥作りを実践しながら、「三原郷づくりネッ
トワーク」事務局長として地域を牽引している。69歳。



サロン活動で地域の困りごとを集約

地域資源をネットワーク化

地区の現状を教えてください

人口約550人、高齢化率50%強の里山
地域で、20年後の人口は400人を切ると
されています。県の現場支援地区になつた
のを受け2014年度に「石州三原の郷プ
ロジェクト(さとプロ)」をスタートしたこ
とが、地域の転機になりました。

活動のきっかけは

さとプロは、連合自治会の下部組織として、
3年間、住民の健康福祉を支援したり、交流
人口拡大を進めたりする4つのグループで活
動を展開しました。

私自身は6年前にUターン。当初は地域

との関わりにはむしろ消極的で、念願だつ
た有機農業に力を注いでいました。心境の
変化はこの「さとプロ」がきっかけです。連合
自治会としての活動だったので参加しまし
たが、人口減少が続く中、地区の存続には地
域構造の根本的な再編が必要だと気付かさ
れました。既存の組織や団体には限界があ
るので、住民自ら考え、動かなくてはと思
いが強まりました。

これまでどんな活動をしてきましたか

さとプロの活動は昨年度から「三原郷づく
りネットワーク」が引き継ぎました。私は農業
再生に取り組む「竹堆肥研究会」に所属し、放

置竹林対策を兼ねて、町特産のエゴマや米作
りへの有効活用を進めました。私の妻らは公民
館でサロン活動を始め、楽しい雰囲気の中で地
域の困りごとなど情報が集まってくるようにな
りました。動いたことで多くの課題が見えて
きました。

「三原郷づくりネットワーク」のキーワード
は、文字通り「ネットワーク化」。竹堆肥研究会
では、他団体と連携し、竹堆肥で育てた有機米
を使ったどぶろく生産や、すでに全国ブランド
化しているエゴマの高品質化など、波及的な取
り組みを行いました。サロン活動を起点に、支援
が必要な人と支援できる人を結び付ける有償
ボランティア活動も生まれました。

地域活動で嬉しかったことは

さとプロの3年間で、現場力のあるコアメンバ
ーと、活動をサポートしてくれる地域のみなさんの
人間関係を構築できたのが何よりの成果です。
活動を通じ、農作業で培ってきた「てご」(手助
け)し合う関係性も再認識できました。

どんな未来を描いていますか

現在の実動部隊は60代が中心で、課題は
後継者育成。幸いUターンの30、40代を中心
に人材が集まり始めました。ネットワーク化は
「今」を積み重ね、未来につなぐ取り組みでも
あります。人的・物的資源を組み合わせて、住
民自治の仕組みを模索していきます。

小田ちさとさん (安来市広瀬町東比田・比田地区)



おだ・ちさと 京都府出身。2015年5月、地域おこし協力隊として比田地区に移住。3年間の任期後はえーひだカンパニー株式会社取締役として、地域活動をサポートするほか、レンコン栽培など農業にも従事。比田地域にほれ込み、活性化に奔走している。31歳。



「えーひだカンパニー」の川上義則社長(右)と地域ビジョンの実践について相談する小田ちさとさん

地域と一緒に未来を創る

地区の現状を教えてください

高齢化率が50%を超え、約11000人の人口が、20年後には半減すると推計されています。地域の存続が危ぶまれる中、地域内の有志によりプロジェクトチームを立ち上げ、2016年に地域ビジョンが策定されました。その実現に向けて、昨年「えーひだカンパニー株式会社」(川上義則社長、構成員74名)が設立されました。

活動のきっかけは

農業と地域おこしがしたいと、3年前、地域おこし協力隊としてイターンしました。きっかけは、大学の時に見た棚田の写真集です。美しい風景は、農家のみなさんの地道な作業の積

今どんな活動をしていますか

み重ねで維持されていて、地域が元気を失えば、この風景も失われてしまう、そんな思いに突き動かされました。Uターンフェアで安来市の協力隊の募集を知り、その後、見学に来ただけなのに歓迎会を開催していただきました。気さくなみなさんから、地域おこしへの「熱い思い」を聞き、「ここで一緒に何かを始めた」と感じました。

地域ビジョン作成のためのアンケートや研修会

を行い、世代別に困り事から将来の夢まで度重なる話し合いをしました。そこで出た1469個のアイデアを集約し磨き上げ、88項目の事業にまとめました。現在は、えーひだカンパニーの

一員として各事業に関わっています。活動当初は、事業に関心が薄く、否定的な意見を持つ方がおられました。「地域みんなの幸せを追求する」「誇りの持てる地域づくり」という考えを丁寧に説明したことで今では多くの方々を理解いただいています。企業理念として「自治機能と生産機能の発揮による『地域ビジョン』の実現と「えーひだ」の創造」を掲げています。経済的に自立した持続可能な地域運営の仕組みづくりを試行錯誤しているところです。

地域活動で嬉しかったことは

最初から不思議なほど「よそ者」扱いはありませんでした。地域性なのかもしれないし、これまで移住された先輩方が地域との関係を築いてこられたからでしょうか。「元気が失われつつある地域によく来てくれた」「おかげで地域が明るくなった」という声をかけてもらい私もとても喜んでいきます。

どんな未来を描いていますか

地域ビジョンの一つでも多く実現したいです。デマンド交通事業の具体化や定住の推進、比田米のブランド化など、まだやるべきことが沢山ありますが、地域のみなさんと一緒に楽しみながら、比田が10年後も住みよいまちとなるよう目指しています。

始まっています



「小さな拠点づくり」のお問い合わせはこちら

- 【東部地区】 島根県庁しまね暮らし推進課 TEL:0852-22-5065
- 【西部地区】 西部県民センター地域振興課 TEL:0855-29-5514
- 【隠岐地区】 隠岐支庁県民局地域振興課 TEL:08512-2-9611